

令和4年度 横浜氷取沢高等学校姉妹校交流（大韓民国）の取組

1. 例年の取組

本校は平成25年7月に大韓民国京畿道始興市（シフン市）にある始興陵谷高等学校（シフンヌンゴク高等学校）と姉妹校協定を結び、交流を続けてきた。

例年は、7月上旬に本校生徒が始興陵谷高等学校を訪問し、4日間の日程でホームステイをして、学校での体験授業などに参加していた。また、12月に始興陵谷高等学校の生徒が来校し、同じくホームステイをして、本校での体験授業に参加するだけでなく、鎌倉での校外学習等を行っていた。

令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症が拡大したため、オンライン会議システム（Zoom）を使用して、オンラインによる交流を行っている。

2. 令和4年度の取組

令和4年度についても、昨年度までと同様、Zoomを使ったオンライン交流を行った。4月上旬に始興陵谷高等学校の担当者とメールを通じて連絡を取りあい、6月上旬から11月までに4回実施し、実施日を水曜日の放課後に行うことを決めた上で、オンライン交流に参加する生徒（姉妹校の交流委員）を募集した。

参加する生徒は書類選考と面接を行い、1年生11名、2年生4名の15名が参加した。なお、始興陵谷高等学校の生徒は16名参加している。

3. オンライン交流の具体的内容

オンライン交流の詳細については次のとおりである。

第1回	6月22日	<ul style="list-style-type: none">・校長あいさつ・学校の紹介と自己紹介・相手の国について興味があることの質疑応答
第2回	9月21日	<ul style="list-style-type: none">・生徒が決めたテーマ別に発表<ul style="list-style-type: none">・日本と韓国の歌について・日本と韓国のお薦めの観光地・学校生活について（休み時間、昼休み、放課後）
第3回	11月2日	<ul style="list-style-type: none">・グループごとのフリートーク
第4回	11月30日	<ul style="list-style-type: none">・グループごとの話合い<ul style="list-style-type: none">・交流の感想・始興陵谷高等学校で作成している小冊子の説明・インタビュー

4. 韓国交流委員の感想（抜粋）

◆生徒A【1年生】

今回初めて韓国オンライン交流に参加して、凄く楽しかった。元々、英会話を習っていて海外の人たちと交流はしていましたが、韓国の人と交流するのが初めてで、すごく楽しかった。韓国がすごく好きなので新たに韓国の友人ができたこともすごく嬉しかった。

オンライン交流に参加することで、韓国語や英語をもっと積極的に喋ろうとする力がついていた。

今年は韓国に行くことができずにオンライン交流しかできなかったけれども、大変楽しかった。来年は是非韓国に行き、もっと韓国の友達と交流したいし、韓国語や英語で話せるようにもっと勉強したいと思った。

◆生徒B【1年生】

シフンヌンゴク高等学校のみんなも、私自身も、とても楽しい交流になったと感じた。シフンヌンゴク高等学校のみんなが交流の感想を日本語で、とても上手に話していて、本当に驚いた。少し会話が途切れてしまった時も、シフンヌンゴク高等学校のみんなは、たくさん質問をしてくれて、会話が弾んだと思った。最後はみんな「さびしい」と話していて、「いつか韓国に行きたいな」と強く思った。

韓国姉妹校のオンライン交流に参加して、私自身人見知りの部分があって自分から話したりするのが苦手だったのが、少し変化できたように感じた。コミュニケーションをとることを目標にしていたので、目標達成できたのかな？と思った。

◆生徒C【2年生】

最後の回の交流で今までの感想をお互い伝えられてよかった。最初の頃は緊張してあまり話せず韓国の生徒が仕切ってくれていたけれど、慣れていくうちに興味があることや気になることについてどんどん質問することができた。

オンライン交流に参加して、今まで、人見知りであんまり話せなかったけれど、交流をしていくうちに韓国について聞きたいことを尋ねたり、躊躇せず思ったことは簡単に伝えることができた。

今年が最後になるが、日本以外の友達ができるのが初めてでとても嬉しい。言語が違って友達になることができ、言語は関係ないと改めて思えた。

5. 今後の展望

令和5年度も引き続きオンライン交流を行いながら、相互訪問の時期などを両校で話し合いたい。また、相互訪問が再開されても、オンライン交流は事前交流の一つに位置付けていきたい。